

ポーランド国内治安関連統計

1 治安情勢及び一般犯罪の動向

国家警察本部が発表した統計によると、2020年第2四半期(4月～6月)の犯罪認知件数は22万375件で、対前年同期比1.9%減、対前期比2.5%増とほぼ横ばいであった。対前期同期比においては、多くの類型で犯罪認知件数が低下しているものの、強姦及び車両窃盗が大幅に増加し全体の件数を押し上げたため、認知件数の大きな低下にはつながらなかった。当地では、新型コロナウイルス感染症対策として、3月20日に感染事態が宣言され外出制限や商業施設の営業制限が実施されたが、犯罪認知件数の減少には結びついていない模様である。

殺人：	156件	(対前年同期比	-4.9%	, 対前期比+	4.7%)
傷害：	2,522件	(同	-2.1%	, 同	-12.3%)
暴行：	789件	(同	-17.3%	, 同	-26.9%)
強姦：	280件	(同	+30.2%	, 同	-20.7%)
強盗：	1,326件	(同	-13.8%	, 同	-19.9%)
窃盗：	24,252件	(同	+9.0%	, 同	-8.5%)
車両窃盗：	2,267件	(同	+70.6%	, 同	+2.7%)
侵入盗：	20,174件	(同	-5.2%	, 同	+4.3%)
薬物犯罪：	17,968件	(同	-1.9%	, 同	-5.5%)
偽造：	4,694件	(同	-14.9%	, 同	-28.8%)

2 邦人被害事案

6月中旬、邦人女性がワルシャワ市内の自宅を留守にしている間、高価な装飾品を盗まれるなど空き巣の被害に遭った。

3 邦人以外の被害事案(参考になり得る事案)

- (1) 4月16日、国境警備隊が「イラク・レバントのイスラム国」(ISIL)関係者と見られるレバノン人男性を拘束した。公安庁(ABW)の情報によると、被疑者はポーランド及びEU加盟国でネットワークを構築することを計画しており、インターネットを通じてISIL組織やEU諸国のISIL関連団体関係者と連絡を取り合っており、西欧諸国でのテロ攻撃実行を企図していたと見られている。同被疑者はシリアに現存するISIL構成員への財政的支援も行っていたとされている。被疑者は、裁判所の決定に基づき、ビャウストクの外国人監視センターに収監された(特務機関調整担当大臣付報道官発表)。
- (2) 5月4日、警察は、ヴィエルコポスルキエ県、ドルノシロンスキエ県、シロンスキエ県、ポドラスキエ県、マウオポスルキエ県、ウツキエ県、マゾヴィエツ

キエ県のショッピングセンターに相次いで爆破予告がEメールで送られているとして注意喚起を行った。同脅迫は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策に基づく政府の決定に伴い、同4日からショッピングセンターが営業を再開したことに関連するとみられるが、いずれの事案においても爆発物等は発見されていない（国家警察本部発表）。

- (3) 5月23日、グダンスク市内のコンビニエンスストア前で27歳の男がウクライナ人男性に差別的な暴言を浴びせた上で暴行を行う事案が発生した（国家警察本部発表）。

4 テロ・爆弾事件発生状況

発生は確認されていない。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

- (1) 日本人の被害
確認されていない。
- (2) 外国人の被害
確認されていない。

(了)